

「ん？ぞうの鼻の穴ってどうなっているの
か？」ぼくは今までそんなことを考えた
ことがなかったから、急にきょう味がでてま
て、どんなひみつがかくさあてているのか、そ
うぞうするとあくあくして来たので、この本
を**選**びました。

ぼくは、この本を読む前は、ぞうの鼻の穴
は鼻の長さと同じようにずっとおくに続いて
いて、目の下を通ると考えました。しかし実
さいは目の上を鼻が通っていること知り思わ
ず

「えー」と声が出てしまいました。ぼくは、
鼻の上にあっただい景色が見にくいと思っ
たのです。

しかし本を読み続けると、なんと倒れたち
人間も同じ場所に鼻の通路があるると書いて
あったのです。

ぼくはまたおどろかされてしまいました。
ぞうと人間の鼻は、形や長さ、大きさが
うのに、中のこうぞうが同じなんて、不思議
すぎいと感動しました。

けれど「まてよ」ぼくと同じ、てことは、
 そうも景色は見にくくなくてもあたりまえだ
 とな、ともできました。

でも、ぞうは、ぼくと違う所がいっぱいで
 鼻を自由じかに動かす所が一番か、こい
 と思ひます。ぼくがぞうの鼻を持つていたら
 まが長い鼻をあおつ、てみたいです。ぼくは
 よく「ぬいどバジヤ」をかたづけなさいと
 お母さんにしがられるので、おこられる前に
 バジヤを鼻でつかんで、動かずにバジヤマ

入れにバジヤマを投げ入れてみたいのです。

友達と遊ぶ時にはいかにけんも鼻でしてみ
 ようと思ひます。ぞうの鼻は先が長い
 といひますが、グバは先を丸めてルは
 そのままで大丈夫。問題はキョキだ、ここは
 みんなで話し合ひしてキョキは鼻をあげる
 決める。これでチーム分けができました。

チーム分けができた、友達と水鉄ほう大
 会を開きたい。物がげにかんれて、友達の後
 ろにしのびより、頭の上から水をジャーンとか

けた口、まじくしゃくしゃする位るうな。なに
 しろぞうは鼻の中に8リットルの水をためる
 ことが出来るのだから。夏の暑い日にその水
 をかけられた友達やお姉ちゃんのほくが鼻でハ
 イタツキ、そんなことを想像すると、楽しく
 なります。

まくは、この本を買ってから2か月経った
 鼻のことを考えよてたんです。ぞうぞうと
 ぞうぞうは、鼻がないと生きていけないこ
 ともわかりました。こんなわたしんけんはぞう

の鼻について考えたのは人生で初めてです。
 ぞうの鼻は最強だ。なに。ぞうは鼻で生きてい
 ます。